

大牟田市立病院 院内がん登録 2009(平成21)年登録症例概要報告

当院は地域がん診療連携拠点病院として指定を受けており、その指定要件の一つに「院内がん登録の体制整備」と「腫瘍データの国立がん研究センターがん対策情報センター（以下国がん）への提出」が求められている。今回は、その第2回目の調査に提出したデータの概要について報告する。

1 当院の登録概要

○対象期間：2009（平成21）年1月1日～12月31日

○登録数：679症例

○登録対象：入院・外来を問わず、上記期間中に自施設において、当該腫瘍に対して初診、診断・治療の対象となったもの。

「国際疾病分類－腫瘍学第3版（ICD-O-3）」における形態コードの性状が2（上皮内癌）、もしくは3（悪性、原発部位）のもの（脳腫瘍に関しては原則的に良性も登録対象）

○登録項目：「院内がん登録標準登録様式 登録項目とその定義 2006年度修正版」による標準項目

各施設においては国がんの実施する院内がん登録実務者・初級者研修を修了した登録実務者の雇用が指定要件となっており、当院では研修を修了した登録実務者が登録を実施している。提出データの品質に関しては送付前に国がんより配布される「品質管理ツール」を用いてデータ項目間の矛盾の無いことを確認して提出を行っている。

次項より、国がんより発行されている「がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2008年全国集計報告書」に準拠し、登録状況について一部を掲載する。

なお、昨年報告した2008（平成20）年症例については国がんより施設別集計結果が公表されており2010（平成23）年7月26日の報道発表以降国がんホームページから報告書PDFファイルの閲覧、ダウンロードが可能となっているので参照頂きたい。

国立がん研究センターがん対策情報センター 医療者向けサイトトップ

<http://ganjoho.jp/professional/index.html>

がん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計のページ

http://ganjoho.jp/professional/statistics/hosp_c_registry.html

*このページから2008年全国集計報告書PDFファイルの閲覧、ダウンロードが可能

2 原発部位別 男女別 登録数

2009（平成21）年の原発部位別の登録状況は次の通りとなっている。

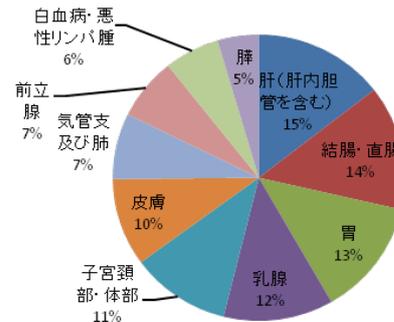
〈院内がん登録上の定義と留意事項〉

- ※1 院内がん登録の定義により、転移がんのため受診した場合も原発部位により登録を行う。
- ※2 登録開始日以降の当該腫瘍に対し、初診、診断・治療の対象となったものが登録対象であるため、他の診療データの状況とは異なる。（登録開始日前からの自施設における継続治療症例、再発症例は登録対象から除外される）
- ※3 1腫瘍1登録（重複がんの場合、それぞれの腫瘍が登録対象）
- ※4 主要5部位とは、胃 結腸・直腸 肝 肺 乳腺 を指す。

表1. ICD-0-3 局在部位順

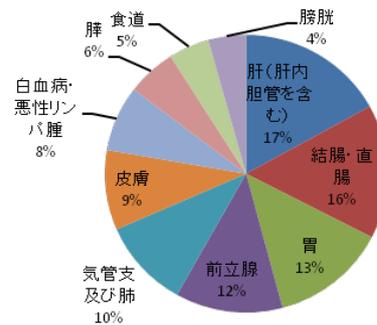
部位	男性	女性	計
口唇		1	1
舌	3	1	4
歯肉	1		1
口腔底		1	1
耳下腺	1		1
中咽頭	3		3
下咽頭	4	1	5
食道	14	5	19
胃	40	29	69
十二指腸		1	1
結腸	26	19	45
直腸S状結腸移行部	5	3	8
直腸	15	5	20
肛門管	1		1
肝	51	22	73
肝内胆管		3	3
胆のう	4	4	8
その他胆道	8	7	15
膵	17	7	24
鼻腔・副鼻腔	1		1
喉頭	5		5
気管支及び肺	31	8	39
胸膜、胸腺	1	1	2
骨		1	1
皮膚	28	24	52
後腹膜及び腹膜		1	1
乳房		64	64
外陰		1	1
子宮頸部		46	46
子宮体部		12	12
卵巣		10	10
胎盤		1	1
前立腺	37		37
精巣	2		2
陰茎	1		1
腎	9	3	12
腎盂・尿管		4	4
膀胱	13	5	18
髄膜	1	3	4
脳	5		5
甲状腺	1	5	6
副腎	2		2
その他内分泌	4	2	6
その他の部位	1		1
原発不明	9	3	12
白血病・悪性リンパ腫	23	9	32
計	367	312	679

図1. 部位別上位10 (全体)



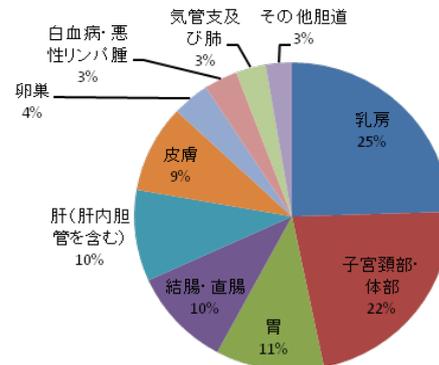
主要5部位で登録件数全体の6割を占める。産婦人科領域（子宮）、皮膚科領域（皮膚）、泌尿器科領域（前立腺）、もみられる。

図2. 部位別上位10 (男性)



主要5部位で5割を占め、次いで前立腺、皮膚の順となっている。

図3. 部位別上位10 (女性)



乳房、子宮で全体の約5割を占め、次いで胃、結腸・直腸、肝と主要5部位が続く。

(参考) 2008 (平成20) 年全国集計結果
 部位別登録数(全)①大腸 ②胃 ③肺 ④乳房 ⑤前立腺
 部位別登録数(男)①胃 ②大腸 ③肺 ④前立腺 ⑤肝
 部位別登録数(女)①乳房 ②大腸 ③胃 ④肺 ⑤子宮

昨年の当院登録状況と比較し、登録数が増加したのはケースファインディング（登録候補見つけ出し）の体制整備に伴い登録漏れが減少したことも要因の一つと考えられる。

昨年の当院登録状況と比較し、女性の胃癌が増加した他は登録の割合に大きな変化は見られなかった。

3 主要5部位の病期（ステージ）と進展度

治療前病期（UICC 6版 肝のみ取扱い規約4版）

	0期	I期	II期	III期	IV期	不明 空白
胃		36	4	4	6	13
結腸・直腸	2	11	16	7	7	24
肝		15	16	14	4	11
肺		2		3	4	5
乳房	1	17	12	1	2	4

※UICC TNM＝国際対がん連合 TNM 悪性腫瘍の分類 取扱い規約＝癌取扱い規約

UICCの定めるステージング方法に基づき、何らかの治療が行われる前につけられた病期を指す。

わが国の通常臨床現場で使用される癌取扱い規約に基づくステージとは若干異なる部分がある。

前医で治療がなされており、治療前のステージが不明な場合などは「不明」に分類されるか、空白のまま登録される。院内がん登録では2012年1月診断症例よりUICC 7版を採用予定。

病理学的病期（UICC）

	0期	I期	II期	III期	IV期	術前 治療後	不明 空白
胃		35	7	5		2	14
結腸・直腸	3	12	19	19	6		8
肝		6	8	1	2		43
肺		1					13
乳房	1	21	8	1		4	2

手術が行われた症例に関して、術後に検体が提出され病理学的に算出されるステージを登録する。手術が行われなかった症例は空欄で、術前に化学療法や放射線治療等が行われた場合には「術前治療後」として登録され、通常の手術症例とは区別される。

当院での肝の治療はTAE等の院内がん登録上「その他の治療」に分類されるもの選択が多いため病理学的病期で不明・空白に分類されるものが増える。

進展度（病理学的）

	上皮内	限局	所属 リンパ 節転移	隣接 臓器 浸潤	遠隔 転移	術前 治療後	不明 空白
胃		34	10	3		2	14
結腸・直腸	3	27	13	10	6		8
肝		14		1	2		43
肺		1					13
乳房	1	26	3	1		4	2

全がん共通で作られた分類。経時的な集計・変化を観察する目的で地域がん登録用に特別に簡素化されたステージであり、地域がん登録と院内がん登録において、がんの拡がり・進行の程度を表す共通の項目として使用される。